

車のお手入れ専門店「Da Capo」ダ・カーポ堺本店  
住所: 大阪府堺市中区平井707-1-2  
電話番号: 0723-55-1935. <https://dacapo-osaka.com/>



施工中のティアナの前で(野田さんとスタッフ)。

オーロラが消えて屋内の証明がボンネットにくつきり反射している。

ガソリンスタンドに重要である。



他のクルマを施工中のダ・カーポのスタッフたち

クルマは嗜好品のように大事にする人がむしろ増えるのだろう。

**オーロラ出ているクルマ**

帰国情中に取材した先がクルマの洗車・コーティング専門店のダ・カーポだ。ダ・カーポは洗車において特別な施工技術を持つC.C.NETWORK K(一般社団法人カーケア顧客満足度向上委員会)に加盟している。

持つて行ったクルマは母が所有している12年落ちの日産ティアナ。2年ほど前にガソリンスタンドでヘッドライトを含めた全体コーティングをしたが、細かい傷が随所にあり、ヘッドライトもくすんでいた。

クルマを買い換えるか否か。考えていううちに12年経ったティアナは、洗車・コーティングの専門店にとつてはうつてつけのクルマだった。納車時のクリア塗装もかろうじて残っているが、ガソリンスタンドで洗車をしても

クルマは嗜好品のように大事にする人がむしろ増えるのだろう。

「ぼやけ」が取れない。このぼやけは専門用語でオーロラと呼ぶらしい。塗装面に光が当たった際に一定の反射ではなく、ぱやっとした不揃いの光を放つのだという。母のティアナはオーロラの出ているクルマだった。

**クリア塗装の下を磨かない**

「ぼやけ」が取れない。このぼやけは専門用語でオーロラと呼ぶらしい。塗装面に光が当たった際に一定の反射ではなく、ぱやっとした不揃いの光を放つのだという。母のティアナはオーロラの出ているクルマだった。

**C.C.NETWORKは日本コーティング協会から派生した団体である。独自のコーティング技能検定などを持ち、最近では台湾でもその検定試験が行われた。代表理事である有村幸男さんは27年におよぶ洗車・コーティング技術の経験を持つが「むかしは赤いクルマを1年に1回磨いてコーティングしていると、どんどん塗装が薄れピンクがかつてしまつたものが最近は違う」と話す。技術の向上により塗膜を削ることがなくなつたのだ。よくコーティング剤などで「耐性年数」と書かれているが、これは元の塗料を維持する年数のことだともいふ。いかにクリア塗装の下を研磨しないかが重要である。**

あるようないわゆる「キツヤー」を使って「削つて」いる。削つてからヤスリの目を徐々に細かくしていき、最後にコンパウンドと上塗りのコーティングをするので新品の輝きになる。ヘッドライトをピカピカにするまで最低でも4工程行っていた。

C.C.NETWORKは日本コーティング協会から派生した団体である。独自のコーティング技能検定などを持ち、最近では台湾でもその検定試験が行われた。代表理事である有村幸男さんは27年におよぶ洗車・コーティング技術の経験を持つが「むかしは赤いクルマを1年に1回磨いてコーティングしていると、どんどん塗装が薄れピンクがかつてしまつたものが最近は違う」と話す。技術の向上により塗膜を削ることがなくなつたのだ。よくコーティング剤などで「耐性年数」と書かれているが、これは元の塗料を維持する年数のことだともいふ。いかにクリア塗装の下を研磨しないかが重要である。

# 知的障がい者の就労支援に取組む車のお手入れ専門店「ダ・カーポ」



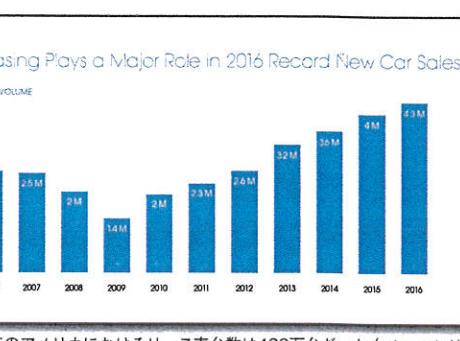
## 世界における日本

帰国情中は当然テレビを見るためではなく、人と会うことをメインとしている。私が日本で人と会うと縦じて「世界における日本」の話になる。経済においては、むかしであれば日本の家電メーカーの話も出たものだが、それはもうない。だが、クルマの話題になることは多々あった。消去法により世界で通用する経済分野に日本の自動車産

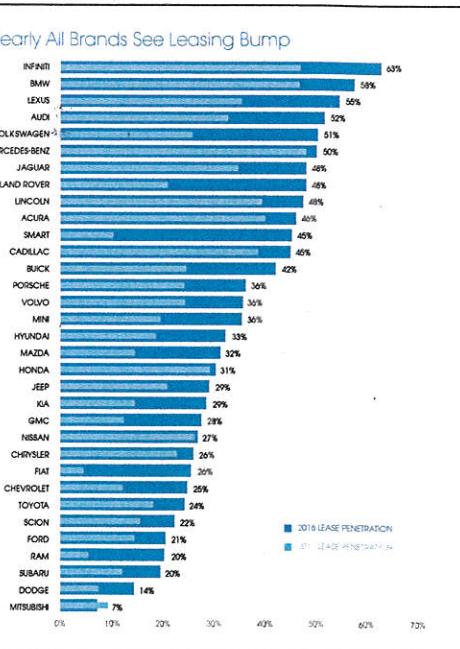
は観る価値がない。視聴者数の分母が大きいだけに実にもつたない話だ。では日大アスポート部の反則タックル問題ばかりが報じられていた。滞在初日から最終日まで続いているには相当驚いた。残念ながら日本のテレビ報道は観る価値がない。視聴者数の分母が大きいだけに実にもつたない話だ。

2週間ほどの滞在だったが、テレビでは日大アスポート部の反則タックル問題ばかりが報じられていた。滞在初日から最終日まで続いているには相当驚いた。残念ながら日本のテレビ報道は観る価値がない。視聴者数の分母が大きいだけに実にもつたない話だ。

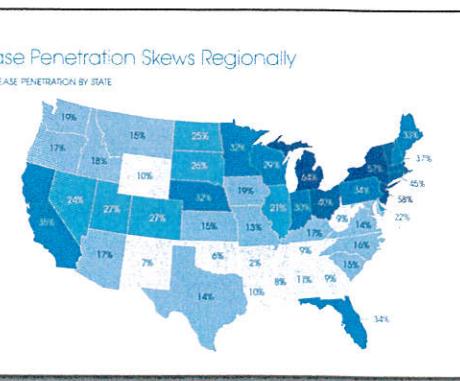
では日大アスポート部の反則タックル問題ばかりが報じられていた。滞在初日から最終日まで続いているには相当驚いた。残念ながら日本のテレビ報道は観る価値がない。視聴者数の分母が大きいだけに実にもつたない話だ。



2016年のアメリカにおけるリース車台数は430万台だった(edmundsリースマーケットレポート2017年1月版)。



2016年における自動車ブランド別のアメリカ国内リース車率(edmundsリースマーケットレポート2017年1月版)。



2016年のアメリカにおける州別リース車率(edmundsリースマーケットレポート2017年1月版)。

## 所有する欲び薄れる

アメリカではクルマを所有することからリースの時代に移っている。10年前と比較すると2割程度だつたりリース率が現在では3割を超えるビジネスといえる(参照: edmunds LEASE MARKET REPORT JANUARY 2017)。

クルマのリースが人気の理由は、アメリカではクルマを「消耗品」と捉えているためだ。クルマは購入した瞬間から減価が始まり、乗れば乗るほど価値が減少する。大なり小なり故障もある。だが2~3年で新車に乗り換えられる。

アメリカではクルマを所有することからリースの時代に移っている。10年前と比較すると2割程度だつたりリース率が現在では3割を超えるビジネスといえる(参照: edmunds LEASE MARKET REPORT JANUARY 2017)。

クルマのリースが人気の理由は、アメリカではクルマを「消耗品」と捉えているためだ。クルマは購入した瞬間から減価が始まり、乗れば乗るほど価値が減少する。大なり